

活力ある東京弁護士会へ

副会長 近藤 健太 (48期)

主な担当業務：資格審査、懲戒、綱紀、総会、常議員会、総務、人事、入退会、司法協議会、選挙管理、市民窓口、職員人事・労務関係、人権賞、不服審査、健保組合、東弁協、国民年金等



久々の会務

私は、2016年1月までは、厚生委員会、広報委員会、弁護士研修センター運営委員会、司法改革総合センターなど、当会の会務活動に積極的に関与して参りました。ただ、2016年2月から2年8か月間、日本弁護士連合会事務次長を務めた上、2019年1月から3年9か月間、文部科学省・原子力損害賠償紛争解決センターに勤務していたため、7年以上もの間、当会会務から離れておりました。

今回、久々に当会会務に携わることとなりましたが、1か月以上経過した現段階においても、当会が様変わりしていることに対応できておりません。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で委員会運営や業務の方法が変わっている事情もありますが、会員数9000名を突破した当会が年々変容してきていることを実感しております。

目下、7年の空白を埋めるべく、日々業務に邁進しているところです。

レインボーレンジャー？

本年度役員は、45期の松田会長をトップに、48期の私、50期の副会長3名、51期の副会長2名、50期の監事1名、53期の監事1名で構成されています。もはや40期台の副会長は絶滅危惧種、これからは50期台・60期台の副会長・監事が中心となって活躍されることと思います。

本年度、山本副会長の発案で各メンバーのイメージカラーを決めました。松田会長はレッド、私はイエロー、黒崎副会長はインディゴブルー、山下副会長はバイオレット、山本副会長はグリーン、鈴木副会長はオレンジ、島副会長はブルーです。監事のお二人も、遠藤監事は

スカイブルー、坪監事はターコイズと決まり、執行部を彩っています。

この多彩なカラーはダイバーシティ&インクルージョンを標榜する松田執行部の象徴。多士済々のメンバーが彩り豊かに多方面で活躍すべく、早速、各自のカラー（ネクタイやスカーフ）を身に付けてあいさつ回りや各種行事に臨んでいます。

引き続きのお願い

本年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に引き下げられました。この原稿を書いている時点で、すでに当会執務室内でのマスク着用は任意となり、パーティションも窓口カウンターを除いて徐々に撤去されつつあります。

3年以上もの長いトンネルをようやく抜けつつある状況ですが、5月8日をもってウイルスが突如変容したのではなく、まだまだ完全な終息に至ったわけではありません。報道によれば、新型コロナ第9波の到来も危惧され、引き続き、高齢者や基礎疾患がある方への感染防止対策を継続する必要があることとされております。

そこで、当会としては、5階会議室や4階面談室の利用については従前の扱いに戻す一方、受付窓口・電話での対応や図書館開館時間については、当面の間、時間を短縮した状態を継続させていただきたいと考えております。また、委員会活動も完全オンライン方式やハイブリッド方式（パソコン持参型）が定着して参りましたところ、事務局の負担軽減の意味からもこの運用を継続したいと考えております。

今後とも、感染症拡大に充分注意しつつ、可能な限り活力ある当会の活動を取り戻して参りたいと思います。

ご理解・ご協力、よろしくお願い致します。